

2021年3月13日

社会福祉法人あおば福祉会
おひさま岡町保育園
2021年度（第21年度）事業計画

はじめに

豊中市では、乳児小規模保育からの継続の3歳以上児の待機が増えています。おひさま岡町のある豊中市中部地区が顕著です。おひさま岡町でもこれまで地域のニーズに応え、面積基準いっぱいまでこどもたちを受け入れてきました。幼児保育は異年齢保育をより意識した保育づくりをあらためて考えていく1年とします。

今年度の大きな特徴を3つ上げます。

1つめは、2021年度より、岡町の規模にあわせ、こどもたちの適正人数の見直しを図っていく。

・受入れ人数の調整（2021年度より4年計画）

2つめに、おひさま保育園とおひさま岡町保育園をつなぐ統括園長を置き、保育をともに考えていく体制の確立。複数管理体制を構築し、全体のことを管理体制の中で整理する中で各園保育の充実を図る。

・異年齢保育（岡町の中で集団の保障をしながら保育の在り方を変えていく）

・交流保育（おひさま保育園とともに幼児4.5歳児の発達保障）

3つ目は20周年記念事業の成功。

・コロナ禍でも保護者とともに保育を考える視点をもつ

1. こどもの入園予定

おひさま岡町保育園 定員 90名

(3月 日現在)

クラス（対数）	定員	受入れ児童数	内支援児	新入園児数	
0歳児（3:1）	15	9	0	9	
1歳児（5:1）	15	12	0	2	（転所2）
2歳児（6:1）	15	15	0	0	
3歳児（15:1）	15	15	0	0	
4歳児（30:1）	15	16	0	0	
5歳児（30:1）	15	16	0	0	
合計	90	83	0	9	

※ 一時保育事業実施（1日3人）

2. 職員体制と職員の状況（新規採用・転勤）

正職員・・・17名 ※新に主任を任命する（千田絵美）

パート職員・・・20名

・常勤パート職員10名 保育士6名 保育補助1名 看護師2名 調理員1名（栄養士）

・短時間パート職員10名 保育士3名 看護師1名 調理員2名（栄養士1）事務職員1名

保育補助 3 名

嘱託医・・・4名	内科	なんばこどもクリニック	難波 直樹
	歯科	河村歯科診療所	河村 忠成
	眼科	谷口眼科	谷口 幸子
	耳鼻科	かない耳鼻咽喉科	金井 龍一

3. 子どもの安全と健康・危機管理

2020年よりコロナ感染症により、これまでの保育の概念が“当たり前”ではなくなったが、“人と人との関りの中でこどもが育っていくこと”を発達保障の軸に据える。命を守ることを最優先課題にしながら生活の主体者として子どもたちの発達保障を保育の中心にする。

子どもの安全を最優先していくための環境整備を行う。

*危機管理に対しての継続的な学習と実践をする。

毎月の避難訓練。防災の日に非常食を食べるなどの計画と実施。

セキュリティの強化として分園の園庭側の掃き出し窓に外から施錠できるようにする（不審者対策）
感染症対策としての手洗いの指導を行う。

*日常に起こる事故やけがの検証をする

こどものケガ（アクシデント）やヒヤリハットから保育の見直しを行い、クラス間・全体で改善する。

*労働強化を守るために

衛生推進者を新に置く。（看護師）施設内チェックリストを活用して点検していく。月管理をする
腰痛の防止のため、ストレッチを行う。

4. 保護者の願いに応え、子どもと共に育ちあう関係を大切に

法人理念や基本方針に基づきながら、地域や保育園の規模など特性を生かした保育を行う。

その中で保護者の要求や願いに応え、ともに育ちあう関係づくりに力を入れる。

- ・ソフトボール大会に向け、保護者の参加を呼びかけ保護者同士のつながりをつくっていく。
- ・本園・分園が共同で行事にとりくんでいくことで保護者とともに行事をつくっていく。
- ・コロナの終息状況をみながら懇談会を行う。（0歳児クラスは必ず行う）
- ・個別の気になる子は管理職がともに参加しながら個人懇談を行う。
- ・保育参観（本園・分園の各年長児）・保育参加を行っていく。
- ・4.5歳児保育はおひさま保育園との交流を通し、ともに保育の計画を立案・実施する。

20周年記念事業

コロナ禍で延期した20周年記念事業の講演会を行う。

保護者、職員と一緒に保育の中で大切にしてきたことをよろこびあえる内容とする

12月5日（日）（予算 記念品含む 200万円） 講師

5. 地域に根差し、地域に必要とされる保育園をめざして（地域貢献事業）

地位に開かれた保育園を目指し、地域貢献事業にとりくみます。

- ・サークル支援（さくらんぼ・ぽっかぽかクラブ）
- ・地域（轟木公園）『ひと・まち・であい夏まつり』に参加する。
- ・スマイルサポーター（千田・南）

地域の教育機関・施設との連携を

- ・幼保小連絡協議会への参加
- ・地域の小学校区にあるこども園との5歳児交流をコロナが可能になれば交流を再開する。
- ・近隣の公園を（園庭）共有しているため、近隣の保育園幼稚園と連絡を取り合い連携を強めておく。

地域にとって大切な社会資源としての保育園に

- ・高齢者お食事会の再開（コロナの様子をみながら）

6. 職員の資質向上をめざして

「実践」と「学習」が結びついた研修を

- ・おひさま保育園とおひさま岡町保育園との4・5歳児・給食室の合同会議を行い、実践と保育内容などの交流を定期的に行う。
- ・長瀬研修や山崎研修を実践と照らしながら年3回行う。

他園との交流を通して学び合う。

- ・おひさま保育園との4・5歳児交流
- ・校区内の保育園との5歳児交流
- ・子ども財団主催の研修への参加

7. 中長期計画に関わって

人について

- ・本園（園長）分園（統括園長）が所在しながら、副主任を複数配置する。
- ・専門リーダーも含め、複数管理体制を整える。
- ・おひさま保育園とともに運営会議を行う。

修繕について

- ・0・1歳児クラスを分けられるようにする。

事業について

- ・園庭として使える土地があれば購入を検討。※土地取得費用の積立を目指す